

「水産業を担う人材を育成」する水産大学校

日本は、暖流と寒流の交差する海に囲まれた世界有数の水産・海洋国家で、古来その豊穡さに潤されてきました。これからも海を護りつつ持続的にその恩恵に浴し、水産資源を効率的かつ安全に活用することによって、国柄を保って行く必要があります。

そのため水産大学校は、水産に関する学理と技術を学び研究させることにより、海の持続的利用と環境保全に配慮しながら水産業及びその関連分野で活躍できる人材を育成することを目的としています。

そこで本校は、以下に示すディプロマポリシーに則った人材育成をめざし、カリキュラムポリシーの通りの教育を行うため、アドミッションポリシーにあるような将来性ある学生を受け入れます。

ディプロマポリシー（人材育成の方針）

水産大学校は、所定の期間在学し、必要な単位を修得する事で、以下に掲げる学習・教育到達目標にかなう知識や能力を身に付けた学生を、水産業及びその関連分野で活躍できる人材として卒業させます。

(A) 地球的視点から多面的に物事を考える能力

一般教養や水産関連分野の地球規模的な幅広い視野を持った知識・能力に基づき、人との関わりや自然や社会との共生に配慮した多面的な視点から考えることができる。

(B) 技術者倫理

専門的水産人（水産技術者）としての倫理的責任を認識し、自然や社会に及ぼす技術の影響を理解できる。

(C) 数学、自然科学および情報技術に関するリテラシーと応用力

数学・自然科学および情報技術に関する基礎的リテラシーを修得し、論理的に物事を考え、これを応用できる。

(D) 該当する分野の専門技術に関する知識と問題解決能力

次の5つの水産学の専門分野の専門技術と基礎的知識を活用し、それぞれの分野が抱える問題を効果的に解決できる。

(D-1：水産流通経営) 漁業生産、漁業経営、流通、国際情勢等に関する専門技術と基礎知識

(D-2：海洋生産管理) 船舶運航、海洋・水産及び水産資源の持続的・科学的生産に関する専門技術と基礎知識

(D-3：海洋機械工学) 舶用機関、船舶機械、海洋環境、水産・食品機械等に関する専門技術と基礎知識

(D-4：食品科学) 水産食品の安全・品質改善、水産物の機能、資源の有効利用に関する専門技術と基礎知識

(D-5：生物生産) 水産動植物の健全な増養殖の推進および増養殖環境の保全に関する専門技術と基礎知識

(E) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力

与えられた環境の中で、水産分野に限らず広く科学・技術に関する知識や種々の情報を利用して、問題を正確に把握し、適切な解決策や方法を見つけ、実践できる。

(F) コミュニケーション能力と国際感覚

日本語・外国語による論理的な記述力、発表力、討論能力などを、実践をとおして養うことにより、創造性・協調性・多様性理解・国際感覚などを身につけ、円滑なコミュニケーションに必要な能力を発揮できる。

(G) 自主的・継続的に学習できる能力

水産科学に関する学習課題を設定し、それを自主的・計画的・継続的に遂行しながら改善を図る事ができる。

(H) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力

与えられた制約の下で自主的に計画をたて、水産科学に関する調査、研究を進め、結果をまとめることができる。

(I) チームで仕事をするための能力

水産科学に関する調査、研究等を他者と協働して進める際に、自己のなすべき行動と他者のとるべき行動を的確に判断し、働きかけながら実行できる。

カリキュラムポリシー（教育課程の方針）

水産大学校は、水産業、水産資源、生命、環境に関する総合的応用科学・実学である水産学の教育・研究を行うことにより、先に掲げたディプロマポリシーに基づく教育目標を達成するため、以下の方針で教育課程を編成します。

- (1) 水産業における漁業生産の現場から食品として食卓に届けるまでの幅広い分野に対応し、水産学を5分野、すなわち水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科にわたった教育体制とする。
- (2) 1年次には主に教養教育科目、共通基礎科目、水産一般科目を配置し、基礎能力を身に付け水産業及び水産学を俯瞰できる広い視野を養う。
- (3) 2、3年次には、それぞれの学科に関する基礎から応用までの専門講義科目を、一部1年次も含めくさび状に配置して学び、さらに講義に対応する実験や乗船実習を含む実習を適宜組み合わせ、実体験によって順次知識の定着を図るスパイラル学習を行う。
- (4) 4年次には、学科教員の研究室に所属して「卒業論文」または「卒業研究」を履修し、水産業の現場課題に関する研究成果を取り纏め発表する事によって、問題解決能力を身につけるとともに、水産大学校における学習の集大成とする。
- (5) 水産庁幹部職員、地方行政・研究職員、水産研究・教育機構の研究職員、水産業界の現場で活躍する民間の方等を学外講師として招き、水産行政・研究、水産業界、流通業界、消費者動向等の最新の情報を的確に教育に反映する。
- (6) 学生の主体的学びのために双方向的教育を心がけ、特に実験・実習・演習科目においては、協働しながら課題を探求し問題解決を図る教育（Active Learning や Problem-based Learning）を推進する。
- (7) できるだけ現場や現物に接し親しむ機会を設けるように配慮する。
- (8) 理数系科目や語学科目においてはリメディアル教育の充実を図り、専門科目においても必要に応じて補講授業を行う。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

水産大学校は、本校のカリキュラムをしっかりと受け止める事のできる、次のような学生を求めています。

- （1）社会人としての教養を身に付け得る将来性を見込める学生
- （2）論理的な思考・判断やコミュニケーションに関する潜在的能力を期待できる学生
- （3）水産業及びその関連分野に関心を持ち、自然と人類との共生を真剣に考え、未知の分野について自ら学ぼうとする意欲が旺盛で、多様な人々と協働しながら、世界での活躍を目指す学生

JABEE 認定の教育プログラム

水産大学校の教育は、平成20年度に、日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education）から、「教育活動の品質が満足すべきレベルに有り、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力（Minimum Requirement）の要請に成功し、技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしている」と認定されました。

これにより、平成17年度以降に入学した本校の卒業生は、技術士の第一次試験が免除される事となり、技術士（国家資格）となるための途が開かれました。

水産大学校が育成する技術者像

- (a) ディプロマポリシーに掲げた学習・教育到達目標をクリアした技術者
- (b) 「水産物の安定供給」と「水産業の健全な発展」の実現に向け、望ましい職業観・勤労観・倫理観を持ち、主体的に水産業及びその関連分野を担う有為な技術者
- (c) 社会人基礎力に加えて水産に関する幅広い見識と技術を身に付け、創造性豊で水産現場での問題解決能力を備えた技術者